

「2018年度 グッドデザイン賞」を2件受賞

公園及び建築 [リバーポートパークミノカモ]

歩道橋 [出島表門橋]

株式会社オリエンタルコンサルタンツ（東京都渋谷区、代表取締役社長：野崎秀則）がデザインを担当した、公園及び建築 [リバーポートパークミノカモ]、歩道橋 [出島表門橋] の2件が、このたび2018年度グッドデザイン賞(主催：公益財団法人日本デザイン振興会)を受賞いたしました。

[リバーポートパークミノカモ] は、美濃加茂市が木曽川の河畔沿いと市街地とを結びつけた、かわまちづくり事業として、木曽川の利活用を検討して、かわとまちを結びつけ、回遊性を良くして地域の発展を目指したものです。弊社は事業計画から設計、現場監理までを担当いたしました。

[出島表門橋] は、長崎市が進める出島復元整備事業の中で、当時、橋があった場所に新たに現代の橋を設計し架けたものです。弊社は下部工詳細設計を担当いたしました。

弊社では、今回の受賞を契機に、今後も地域の歴史・文化を融合した観光振興・地域振興に資する良質な公共空間のデザインの提供を目指し、国内外で社会に貢献できる、様々な事業展開を積極的に進めていく方針です。

グッドデザイン賞受賞展「GOOD DESIGN EXHIBITION 2018」に出展

本年10月31日（水）から5日間にわたり、東京ミッドタウンで開催される、最新のグッドデザイン全件が集まる受賞展「GOOD DESIGN EXHIBITION 2018」において、公園及び建築、歩道橋の2件が特別展示で紹介されます。

GOOD DESIGN EXHIBITION 2018 - 2018年度グッドデザイン賞受賞展 -

会期：10月31日（水）～11月4日（日）

会場：東京ミッドタウン（東京都港区六本木）

<http://www.g-mark.org/gde2018/>

グッドデザイン賞とは

1957年創設のグッドデザイン商品選定制度を継承する、日本を代表するデザインの評価とプロモーションの活動です。国内外の多くの企業や団体が参加する世界的なデザイン賞として、暮らしの質の向上を図るとともに、社会の課題やテーマの解決にデザインを活かすことを目的に、毎年実施されています。受賞のシンボルである「Gマーク」は優れたデザインの象徴として広く親しまれています。

<http://www.g-mark.org/>



※写真データを用意しています。下記お問い合わせ先までご請求ください。

<本資料に関するお問い合わせ先>
株式会社オリエンタルコンサルタンツ
TEL: 03-6311-7551 FAX: 03-6311-8011
URL : <https://www.oriconsul.com/>
統括本部 宮内、内藤

- 受賞対象名：公園及び建築 [リバーポートパークミノカモ]
- 事業主体名：美濃加茂市
- 概要：リバーポートパーク（正式名称・中之島公園）は岐阜県美濃加茂市の公園改修事業です。公園内外には既存林、芝生広場、木曽川といった様々なアクティビティが可能な資源があり、「地球と遊べる「まち」美濃加茂を代表するポテンシャルがありました。市民もアクティビティの運営や参加に積極的であったため、川遊びやBBQ、プレーパークなどのプログラムを共に考え、それらを繋げるように公園及び建築をデザインし、「人と人、人と自然が交わる多世代・多文化交流拠点」としました。現在は指定管理者の運営が行われ、新たな市民の憩いやまちめぐりの拠点として市外からも多くの利用者がある等、美濃加茂の新たな「湊」として活用されています。
- プロデューサー：岐阜県美濃加茂市長 伊藤誠一
ディレクター：岐阜県美濃加茂市役所 建設水道部土木課 大塚雅之、坪井勤、酒向一也、小栗朋子＋中之島公園利活用共同体＋きそがわ日和＋NATURE DESIGN Good Job Lab 堀義人
デザイナー：(株) オリエンタルコンサルタンツ（太田啓介、金野拓朗、高橋利之）＋庄野健太郎建築設計事務所（庄野健太郎）＋(株) ミユキデザイン（末永三樹、大前貴裕）＋佐口建築製作（佐口達也）
- グッドデザイン賞審査委員による評価コメント：
川遊びやBBQ、プレーパークなどのプログラムを介して人と人、人と自然、文化が交わるように設計された拠点施設。快適にBBQを行えるよう芝生内に設けられたウッドデッキとランダムな大屋根の連なりや地形に合わせて大らかに描かれた動線が、開放的で集いやすい場づくりに寄与している、奇をてらわない素直なデザインを評価した。



リバーポートパークミノカモ 全景

photo: Hiroshi Tanigawa

□ 受賞対象名：歩道橋 [出島表門橋]

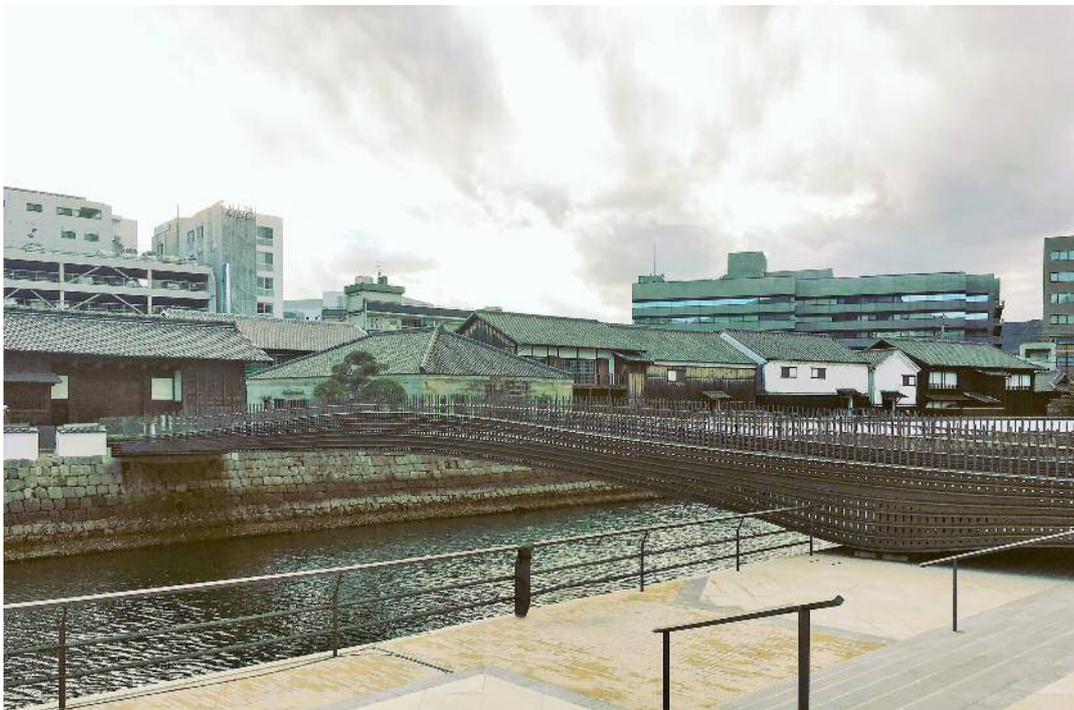
□ 事業主体名：長崎市

□ 概要： 戦国時代、日本と海外の唯一の接点であった長崎、出島。1951年から長崎市が進める出島復元整備事業の中で、現代の橋を設計し架げた。史跡保護等の条件から力をバランスさせ片側で33.3mを支えるというここにしかない現代の橋。遠景からは歴史の風景と調和し、人が触れる細部に至るまで丁寧にデザイン。さらに、その橋を市民とともに架けるため、設計～運搬～架橋～完成までのプロセスをデザインし、5000人を超える市民が見守る中、橋の架橋を街の祭りごととして成立させた。完成後も、市民と共にメンテナンスする活動を継続し、街の資源として橋への愛着醸成へとつなげている。現代のインフラの新しい在り方をトータルでデザインした。

□ プロデューサー：長崎市 市長 田上富久 / Ney & Partners Japan 代表取締役 渡邊竜一 Laurent Ney
ディレクター：Ney & Partners Japan 代表取締役 渡邊竜一 Laurent Ney Ney & Partners BXL Eric Bodarwe
デザイナー：Ney & Partners Japan (橋梁設計、休憩施設設計) + (株) オリエンタルコンサルタンツ (下部工詳細設計) + DIAGRAM (サイン) + EAU (公園設計) + (株) オリエンタルアイエヌジー (調整)

□ グッドデザイン賞審査委員による評価コメント：

史跡保護による地盤の改変不可という条件を有する出島に対して、水面に橋脚を落とすことなく、かつ、片側（出島）に荷重を載せないシーソー構造を用いるという構造デザイン的解決、歴史的経緯もある動線に対して再び架橋するというプロジェクト経緯、分離しやすい上部工と下部工を調和させた側面デザイン、地域全体を巻き込んだ架橋のイベント化、定期的なメンテナンスも地域を巻き込んで行うなど、ハード・ソフト両面から見ても、橋梁のプロジェクトとしては稀有な事例であり、新たなインフラストラクチャのデザイン手法を提示している。



出島表門橋